

能登半島地震により受けた木造寺院建築の主な被害

岐阜県博物館友の会 後援会員

亀山建設株式会社

会長

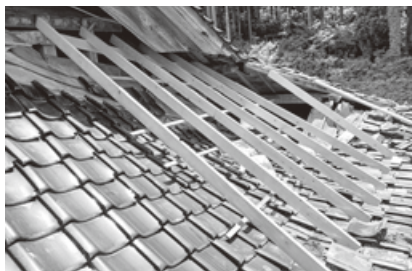
亀山 義比古



昨年一月一日に起きた地震は能登地方に相当な被害を引き起しているとのテレビのニュースで感じていましたが、何か支援を会社としてやらねばいけないと強く思い、頃合いを計り一月中旬、震度六弱以上の土地に在る浄土真宗の寺院に絞り込み、本山支所の僧侶さんの案内又は口利きで緊急支援を開始しました。

緊急支援の主な内容はこれから数年の内で起きるであろう余震、強風に対しこれ以上建物の被災が拡大しないように応急の補強を施工し、来る本格復旧時に安価に進めることが出来るという工事です。例を示しますと梁が落ち

陥没した屋根を応急の屋根を造ったり(写真一)柱脚が移動し、傾いた鐘樓の柱脚を固定し、これ以上傾かないようにワイ



▲写真一

ヤーで引つ張ったりする仕事です。
(写真二)

ところで

応急処置に回る時、各御寺院のカルテを作製

しますが、これを基に



▲写真二

本堂(築後三百年程)現在の木造本堂の統計を取ってみると、被害状況は表一のようになります。これから意外な事実が解つてきました。統計をとった本堂は震度六強以上の強い揺れに遭つていて構造計算をするとほとんどの本堂は「倒壊」の結果が出るのですが、実際は「倒壊」したのは一ヶ寺(三%)のみ。全体の八割の本堂は復旧工事に少額で済む被害程度です。つまり土台も無く礎石から柱が立つ伝統的な造り方の木造本堂であつて数百年に一回起きるような強い地震に遭つても正しい造り方であれば耐えられるということが実証されたと言えます。

もう一つ

の地震特有の被害が発生しており、それは鐘樓の移動に伴う倒壊及び礎石からの踏み外しです。写真二のようにはほとんど鐘樓は礎石(正式には礎盤と言う)から踏み外し、その内四分の一の鐘樓は壇から飛び出し落下して倒壊する現象で、表二に示すようにほとんどの鐘樓は大きな被害を受けました。

能登半島地震

被災地域の復興

に向け色々企画、実行がなされていることがニュースで流れています。寺院の伽藍復興整備はこれから年数をかけて粘り強くなされてゆくと考えられますので、地道な支援を続けさせてもらいたいと思っています。

	種別	件数	応急処置
四本柱形式	倒壊	6件(24%)	25件 (100%)
	一部損壊~大破	18件(72%)	
	軽微	1件(4%)	
	基礎破壊		2件
	計		27件

表二 鐘樓の被害

	被害状況	身 舎 部
I	倒 壊	1ヶ寺 3%
II	大破(全 壊)	6ヶ寺 18%
III	中破(半 壊)	11ヶ寺 32%
IV	小破(一部損壊)	12ヶ寺 35%
V	軽 微	4ヶ寺 12%
計		34ヶ寺

表一 本堂の被害

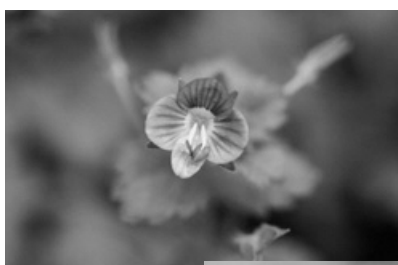
「雑草とよばないで」を開催します

岐阜県博物館 学芸部 松久 聖子

今春、臨時休館明けの令和7年3月18日(火)から6月15日(日)まで、博物館本館4階、企画展示室にて、岐阜県博物館企画展「雑草とよばないで」を開催します。

田や畑、道端、空き地など、人の手が入った場所に勝手に生えて、どんどん増える。厄介もので、見向きもされない植物たち。雑草とよばれるのは、一般的にそのような植物です。しかしながら、ひとつひとつの植物には名前があり、よく見れば、美しい花を咲かせ、巧みに生きています。

本企画展では、雑草とよばれる植物を通して、植物の生き方や、生きもの同士のつながり、人間生活との関わりを紹介します。植物の名前ひとつを覚えるだけで、自然との距離はぐっと縮まります。きっと、いつもの道で見ている景色が変わるはずです。今年の春はぜひ、あたたかい春の光に誘われて、足元に広がる自然の美しさに触れてみませんか。



▲オオイヌノフグリ



▲ホトケノザ

「ぎふ標本作製研究会 しにものくらぶ」結成

岐阜県博物館 学芸部 説田 健一

当館の老舗サポーターグループ「ダチョウ組」は2008年に結成されました。これまでに数々の標本作製し、博物館に多大な貢献をしてこられました。昨年末からは、今夏の商業施設における展示を目指し、下呂市で見つかったサンショウウオ(チュウゴクオオサンショウウオとの雑種)の骨格標本作製中です。近年、ダチョウ組を仕切られるY組長の標本作製技術がプロ並みに上達するとともに、各方面から組員が入会され、活動が活発になってきました。

しかし、大きな問題が一つ。ご承知のとおり、当館は公共交通機関では来にくく、自家用車がないサポーターには参加しにくい環境にあります。ダチョウ組には岐阜大学の学生が多数参加していますが、学生からY組長の力量が岐阜大学のM准教授に伝わったことをきっかけに、連携して活動しませんかという提案がありました。活動グループの名称は、Y組長発案の「ぎふ標本作製研究会 しにものくらぶ」となり、岐阜大学で開催することになりました。担当としては、標本作製以外にも活動が広がる予感があり、今後が非常に楽しみです。



▲しにものくらぶ会場

新収蔵品紹介

羽柴秀吉朱印状

岐阜県博物館 学芸部 中川 創喜



▲羽柴秀吉朱印状

昨年度、岐阜県博物館が収集した資料の一つを紹介します。

天正12年(1584)、羽柴(豊臣)秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍が対峙した小牧・長久手の戦いは、3月から11月にかけて約8ヶ月続き、その範囲も尾張・美濃・伊勢にわたる大規模戦争でした。

本資料はこの戦いの最終局面ともいえる11月8日に、羽柴秀吉が弟の秀長の家臣・桑山重晴に宛てた朱印状です。内容は、桑山重晴からの書状と尾張に派遣している者の報告を聞き届け、秀吉のもとに同様の情報が伝わっていることを報せています。重晴からの念入りな報告に感心し、11月5日の夜に東駒野城を攻め崩したことはもっともなことだと伝えています。

桑山重晴については、賤ヶ岳の戦いや紀州での活動が知られていましたが、小牧・長久手の戦いにおける動向は知られていませんでした。その点で本状は、南濃地域での戦いに従軍し、秀吉へ現地の情報を報告していたことを示す貴重な一資料といえます。

戦いの舞台となった東駒野城は海津市南濃町に所在する駒野城の周辺にあったと想定されます。駒野城を守った高木貞利らの一族は織田信雄に属して戦いました。なお、東駒野城の落城については、本状と同様に池田照政の家臣である土倉四郎兵衛・田中真吉らも秀吉に報告しています。

旧宮川家住宅主屋(旧徳山村民家)を活用したプログラムを実施

岐阜県博物館 学芸部 則竹 裕嗣

令和元年より5年の歳月をかけて耐震補強、防犯防災設備の設置、茅の葺替え工事などの保存修理を行った登録有形文化財 旧宮川家住宅主屋が令和6年4月27日から一般公開されました。百年公園を散策される多くの方が公開された施設を見学されています。また、今年度、百年公園の整備工事により、例年実施している百年公園での「秋みつけ」の体験プログラムは旧宮川家住宅主屋奥にある子ども広場で実施したため、一部の学校団体は公開された旧宮川家住宅主屋を見学し、今と昔の生活の違いを学んでいただきました。

「初めて火を見たよ」「囲炉裏の火はあたたかいね」などの見学した児童の感想を聞き、普段の生活では体



験できない機会となりました。引率される学校の先生からは「この主屋に『糸車』や

『わらぐつ』などが置いてあると、国語の学習とつながりますね」と話を聞き、他教科と



のつながりとなるヒントをいただきました。

来年度以降も、多くの学校団体が公開された旧宮川家住宅主屋を見学されます。学校の授業に関連する資料を展示したり解説を行ったりなど、公開された旧宮川家住宅主屋が活かされる活動プログラムを今後、検討していく予定です。

友の会の皆様におかれましては、旧宮川家住宅主屋を活かした活動についてご助言、ご支援いただければ幸いです。

探訪の旅

瀬戸内しまなみから土佐を巡る旅

探訪委員会

令和7年2月4日～6日に広島・愛媛・高知3県を訪ねました。参加者は16名でした。

2月4日(火)は交通機関の乱れにそなえ予定を早めてのJR岐阜駅集合。名古屋から雪景色の関ヶ原を通り新幹線のぞみで広島県福山市へ。神功皇后が「鞆」を納めたのが地名の由来の鞆の浦は、ホテルで昼食後、福禅寺・対潮楼見学と三条実美ら七卿落ちゆかりの太田家住宅など散策。しまなみ海道は途中、隈研吾設計



▲福禅寺から仙酔島

の亀老山展望台で来島海峡大橋、瀬戸内海を一望。車中で桐やレモン、綿、製塩等の産業や平山郁夫、村上水軍、坪内寿夫等々について聴き、松山泊。5日(水)は松山城築城をめぐる加藤嘉明と徳川家康の駆け引きのお話を聴きながら四国自動車道で高知へ。前日は凍結による通行止めだった高知道もこの日は通行可。車中で亀山建設会長さんから「望楼型天守と層塔型天守の構造」のレクチャー。ひろめ市場で自由昼食、城博と高知城。6日(木)は牧野富太郎植物園、昼食では鰹のたたきの薫焼き体験ができました。最後の見学地は桂浜と龍馬記念館。この日は暖かさを感じる過ごしやすい日でした。帰路はガイドさんの♪「南国土佐をあとにして」等を聴きながら高知龍馬空港到着から空路セントレアへ。そこから名鉄電車で岐阜へ。百年公園駐車組は車を覆った雪をかき落として帰宅しました。

参加者の皆さまに感想アンケートをいただきましたのでご紹介いたします。なお、一部紙面の都合で割愛・編集させていただきました。ご容赦ください。

□福山の町、バラの匂いのするよう
なきれいな町。そして絶景鞆の浦、さらに絶景瀬戸の



▲亀老山展望台から来島海峡大橋

島々・しまなみ海道。春にまた訪れたい。若い運転手さん、きれいな声でお話し上手なガイドさん、すべて揃って幸せでした。(T.O.)

□初めての旅でしたが大半の方々がお知り合いで楽しい心に残る旅でした。なによりも高齢者ばかり(?)の

皆さん無事帰宅されたことは感謝です。(M.A.)

□皆様のご支援で無事行けました。雪の四国というのも良い経験でした。牧野植物園の広さと植物の種類が格別でした。新装なった夜の道後温泉が眼に残っています。(T.K.)



▲道後温泉

□心配していた天気も3日とも好天に恵まれ、初日対潮楼・鞆の浦、亀老山展望公園、2日目、歴史博物館・高知城、3日目牧野植物園、龍馬記念館、桂浜と素晴らしいところへ案内していただきました。ボランティアガイドさん、バスガイドさんの軽妙でわかりやすい説明でした。(T.I.)

□寒さが一番身に応えました。探訪の旅では、港町鞆の浦、木造の古寺、高知城、想像以上に広大な敷地の牧野植物園、龍馬記念館、桂浜等、自然豊かな名所・景勝地に触れられてとても良い体験ができました。(N.K.)

□江戸時代に建てられた天守や本丸御殿などの建物が現存しているのは高知城だけ。三層六階の天守閣の最上階は戸が開け放しで、展望は抜群ですが、風が強く「高みの見物」どころではありませんでした。計画通り実施され多くの成果を得て無事終了することができ本当に良かったと感謝しています。(N.O.)



▲高知城 追手門から天守閣

□バスのガイドさんに始まり、高知城・牧野植物園のガイドさん…と、よくもまあと思うスペシャリストたちの説明に各地で勉強させてもら



▲スエコザサの解説

いました。友の会の旅ならではの感激でした。(K.K.)

□高知県立牧野植物園・記念館の広い敷地建物に密に植えられ、展示された植物・資料に圧倒されました。また、係員の皆作業服で真剣さが伝わってきました。植物学者の本物の活躍が伝わってきました。(Y.K.)

□最強寒波にもかかわらず皆さんとの3日間は心温まる毎日でした。天守閣の造りは初めて知り、これからお城を観る楽しみが増えました。植物園もまた訪れてみたくなりました。(K.M.)

□探訪の旅に初めて参加して一番嬉しかったことは、資料に説明がありよくわかることです。バスの中での説明もよくわかり、天守の二つの型も初めて知りました。



▲バイカオウレン

た。牧野植物園が一番訪れたいところでした。バイカオウレンのかわいい花に迎えられ心もほっこりしました。可憐な花、春の訪れを感じました。シモバシラソウは初めて見た植物。本当に嬉しく再度訪れたいなああと後ろ髪引かれる思いで離れました。(K.M.)



▲牧野博士の書斎ジオラマ

□今回の訪問の旅は、私にとって数十年前の青春時代を巡る旅でした。特に桂浜は、卒業を前にして教師になる夢や不安を語り合い友情を深め合った懐かしい場所です。間違っって泊めてもらった高知大学の男子寮も大切な思い出です。三人旅で、一人は昨年急なご逝去。もう一人も車椅子生活。「廻子ちゃん、また桂浜へ来られて良かったね。」と、二人の優しい声が聞こえてくるような思い出の旅となりました。(K.M.)

□今回の探訪の旅では、坂本龍馬の銅像の大きさに感動しました。龍馬は尊皇攘夷派と幕府派の殺し合いで血に染まり汚れた日本を洗濯しようと、船中八策を考案しました。それは大政奉還を含む新しい日本の指針でした。銅像にその精神の大きさを感じたのです。(M.H.)



▲桂浜 坂本龍馬像

□今季最強寒波のもとに、日本を大きく揺るがした多くの人物を巡っての3日間でした。新幹線の中でいただいた資料が大変参考になりました。寒風吹きすさぶ高知城の天守閣での経験は幕末維新を彷彿とさせる貴重な思い出となりました。(K.K.)



浦戸城跡 ▶
龍馬記念館駐車場隣

会員の声

岐阜県博物館&百年公園から文化を紐解く(3)

岐阜県博物館 友の会 奥 英樹

4 ハンカチノキ

5月中旬ごろ、ハンカチを吊り下げたように白い花を咲かせます。場所はサイクリングコースのちょうど真ん中ほどのイチョウ(銀杏の実がなります)の付近です。南側の駐車場の近くにもあります。原産地は中国西南部(四川省)の標高2000mの高地に自生している非常に珍しい樹木で、一科一属です。植物界のパンダといわれています。名古屋の東山動物園には昭和57年に中国の南京市との友好都市提携記念として贈られてきた苗木から育てられたものがあります。



5 オオバコ

2018年4月に放送された「又吉直樹のヘウレーカ」(NHK Eテレ)『なぜ植物はスキマに生えるのか?』は、4年生の時に全国小学生自由研究最優秀賞に輝いた「オオバコはなぜ道の真ん中に生えているのか」の山田駿佑さん(関市立倉地小学校出身)の研究を中心に構成されました。家の駐車場や百年公園のアスファルトの道などにオオバコがなぜ生えているのかについて研究したくなったという。百年公園内の10本の山道で「オオバコ度」の調査をし、同じ山道で「ふみつけ度」と「植物の背の高さ」の関係を調べ、踏みつけに強いかどうかプランターで育て10週間かけてふみつけ実験をするなど、子供ならではの好奇心と発想力・行動力が評価され受賞したそうです。番組のなかで、オオバコの意外な秘密を他の植物と比較しながら調査したことなど堂々と話していたのが思い出されます。



子供は子供なりに、大人は大人なりにそれぞれが博物館や百年公園を利用して、健康づくりや学びの場としてだけでなく、さらに様々なことに関連付けて文化・教養の輪が広げられるといいと思います。

(138号、141号、今号の連載記事です。141号の同氏の記事が岐阜県博物館&百年公園から文化を紐解く(2)となります。)

マイミュージアムギャラリー 第1回展示
「つまみ細工-日本の伝統工芸を生活の中に-」
令和7年4月12日(土)～5月11日(日)

岐阜県博物館 学芸部 石井 宏明

令和7年度の第1回目は、日本つまみ細工コーディネート協会Gifuさんによる「つまみ細工-日本の伝統工芸を生活の中に-」を開催します。

「つまみ細工」とは、江戸時代から伝わる伝統工芸品であり、着物の端切れや再利用といった形で布を四角に折りたたみ花や蝶々を遊び感覚で作ったのが始まりとされています。主に結び上げた髪に飾るかんざしとして使われてきました。

本展示では、『ハレの日』を彩るかんざしの他、『ハレの日』以外で日々の生活に華を添える作品も展示します。また、つまみ細工を身近に感じてほしいという思いから、花を作るつまみ細工体験の実施や、実際に認定講師が作成しているところを見学する実演も予定します。

春夏秋冬をつまみ細工で表現した四季折々と合わせてお楽しみください。



▲作品例

岐阜県博物館からのお知らせ

- 1月14日から3月17日まで施設設備改修のため臨時休館をしてこの間、マイミュージアム棟エレベーター、屋上防水、エントランス照明工事等を行ってきました。博物館は3月18日(火)から開館します。
また、百年公園の改修工事も3月中に終了し、4月23日から全国都市緑化ぎふフェアが開催されます。

3月～5月の展示・行事のお知らせ

- ◆企画展「雑草とよばないで」 3月18日(火)～6月15日(日)
※本誌2ページに詳細な紹介があります。
- ◆移動展 飛騨高山まちの博物館
「伝統、そして傑作-岐阜県博物館コレクションを中心に-」
4月12日(土)～6月15日(日)
- ◆マイミュージアムギャラリー展
「つまみ細工-日本の伝統工芸を生活の中に-」
4月12日(土)～5月11日(日)
※本誌6ページに詳細な紹介があります。

友の会事務局からのお知らせ

★令和6年度後期友の会の主な活動について

- 秋季理事会の報告
11月14日(木)に開催され、①令和6年度会務中間報告、②一般会計・特別会計中間報告、③後期の会務、について報告、承認していただきました。
- 2月4日(火)～6日(木)探訪の旅「瀬戸内しまなみから土佐を巡る旅」
※本誌4～5ページに報告・紹介があります。
- 探訪委員会
- 3月8日(土) 会長・副会長会議